

「笑顔・元気 かがやく大竹」に向かって

平成24年度当初予算成立

問い合わせ 企画財政課 ☎2121

一般会計・特別会計の当初予算の状況

人づくりの土台となる小方小学校・小方中学校移転改築事業などの教育費が増加したものの、検診医療機器整備補助金の減による衛生費の減少により一般会計の歳出は、前年度と比べ0・1%減となっています。

歳入では、学校施設整備の増に伴う国庫支出金が増えているものの、法人市民税や固定資産税の減収により市税は前年度比7・0%減となっています。7つの特別会計の合計は、73億3、272万円の前年度と比較して0・9%減となっています。

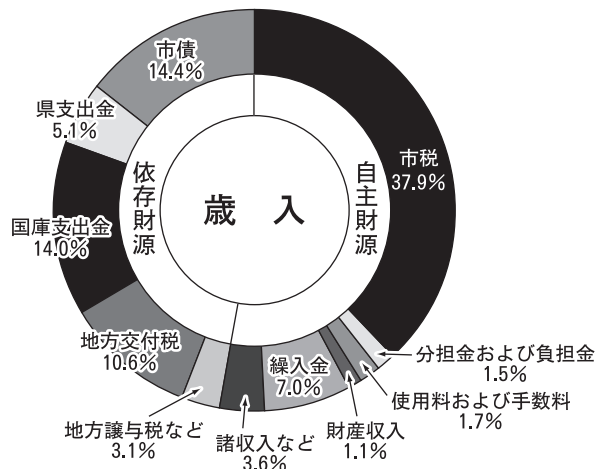
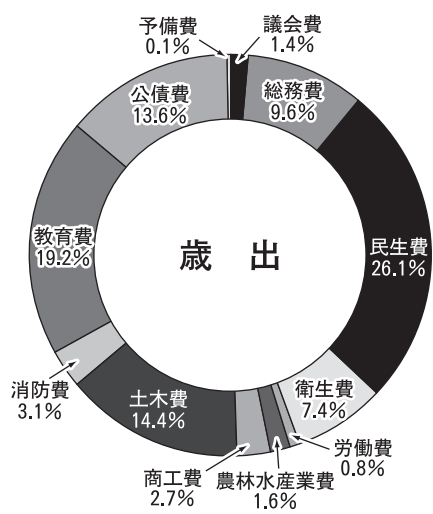
一般会計・特別会計

名称	予算総額	前年度	対前年度比
一般会計	144億19万円	144億1,700万円	▲0.1%
特別会計計	73億3,272万円	74億239万円	▲0.9%
国民健康保険	34億5,374万円	36億6,514万円	▲5.8%
漁業集落排水	2,907万円	2,833万円	2.6%
農業集落排水	4,217万円	4,228万円	▲0.3%
港湾及び漁港施設管理受託	5,577万円	6,009万円	▲7.2%
土地造成	9億2,469万円	9億3,373万円	▲6.0%
介護保険	24億3,127万円	22億6,344万円	7.4%
後期高齢者医療	3億9,601万円	3億5,938万円	10.2%
合計	217億3,291万円	218億1,939万円	▲0.4%

企業会計

名称	区分	予算額	前年度	対前年度比
水道事業会計	収益的	収入 5億1,945万円	5億2,656万円	▲1.4%
	支出 5億1,337万円	4億9,551万円	3.6%	
工業用水道事業会計	資本的	収入 7,159万円	6,073万円	17.9%
	支出 1億8,630万円	1億6,633万円	12.0%	
公共下水道事業会計	収益的	収入 5億7,763万円	5億8,043万円	▲0.5%
	支出 5億2,722万円	5億4,960万円	▲4.1%	
資本的	収入 2億2,452万円	1億9,212万円	16.9%	
	支出 4億6,115万円	4億2,181万円	9.3%	
収益的	収入 7億7,768万円	8億2,271万円	▲5.5%	
	支出 7億7,261万円	7億8,712万円	▲1.8%	
資本的	収入 5億9,676万円	4億9,374万円	20.9%	
	支出 8億8,553万円	7億7,581万円	14.1%	

一般会計 144億19万円



歳出

項目	内容	平成24年度 ()は前年度	前年度比 (%)
歳出		144億 19万円 (144億1,700万円)	▲0.1
議会費	議会の活動にかかる経費	2億239万円 (2億2,364万円)	▲9.5
総務費	市の一般的な管理事務経費、支所、選挙などの経費	13億7,871万円 (13億9,203万円)	▲1.0
民生費	生活保護や児童・高齢者などの経費	37億5,425万円 (37億7,658万円)	▲0.6
衛生費	衛生的な生活環境を守るための経費	10億7,109万円 (12億4,062万円)	▲13.7
労働費	労働者の生活安定や福利増進事業などを行うための経費	1億2,005万円 (1億6,605万円)	▲27.7
農林水産業費	農林業や水産業の振興などの経費	2億3,199万円 (1億6,995万円)	36.5
商工費	商工業の振興や観光宣伝などの経費	3億8,531万円 (5億1,717万円)	▲25.5
土木費	道路、河川、港湾、市営住宅、公園などの経費	20億7,793万円 (22億7,812万円)	▲8.8
消防費	消防・救急業務や災害対策の経費	4億3,955万円 (4億638万円)	8.2
教育費	小・中学校の運営や社会教育などの経費	27億6,105万円 (22億9,432万円)	20.3
災害復旧費	災害復旧工事などの経費	- (-)	0.0
公債費	過去の借入金の返済金	19億5,787万円 (19億3,214万円)	1.3
予備費	緊急時のための目的を定めていない予算	2,000万円 (2,000万円)	0.0

※ 災害復旧費は災害発生の緊急時、直ちに予算を増額して対処するため、名目的な額のみ計上しています。

歳入

項目	内容	平成24年度 ()は前年度	前年度比 (%)
歳入		144億 19万円 (144億1,700万円)	▲0.1
市税	市民税や固定資産税など	54億4,974万円 (58億6,000万円)	▲7.0
	分担金および負担金	2億2,151万円 (2億2,130万円)	0.1
使用料および手数料	市営住宅使用料、ごみ・し尿処理使用料、各施設の使用料など	2億5,050万円 (2億6,222万円)	▲4.5
	財産収入	土地売払収入、寄付金など	1億5,581万円 (1億9,275万円)
繰入金	財政調整基金繰入金、水道会計退職手当組合負担金繰入金など	10億969万円 (10億1,122万円)	▲0.2
	諸収入など	他の収入科目に含まれない収入（貸付金元金収入など）	5億2,374万円 (5億5,963万円)
地方譲与税など	国や県が徴収した税の一部を一定割合で交付されるお金	4億4,127万円 (4億6,925万円)	▲0.6
	地方交付税	市の財政力などに応じて国から交付されるお金	15億2,700万円 (10億8,200万円)
国庫支出金	特定の目的のために国から交付されるお金	20億1,266万円 (18億5,769万円)	8.3
	県支出金	特定の目的のために県から交付されるお金	7億2,936万円 (7億5,304万円)
市債	大きな事業を行うために国や金融機関から借り入れるお金	20億7,891万円 (21億4,790万円)	▲3.2

住みたい、住んでよかったと感じるまちづくり

第五次総合計画では、基本構想で「住みたい、住んでよかったと感じるまち」をまちづくりのテーマとして設定しています。10年後の大竹市が笑顔・元気 かがやく大竹になるよう、6つの基本目標を定め、市民のみなさんが考える「よいまち」の実現に向けた施策を展開していきます。

6つの基本目標

- 大竹を愛する人づくり
- 生活基盤が整ったまち
- 安全なまち
- 安心できるまち
- 心にゆとりを感じるまち
- 行政・社会の仕組みづくり

平成24年度から平成26年度の3年間は、基本構想にかかげる将来像「笑顔・元気 かがやく大竹」を実現するため、各施策をどのように実施していくかを明らかにした総合計画実施計画に沿った事業を展開していきます。

平成24年度当初予算は、昨年度に引き続き、人づくりの土台となる小方小学校・小方中学校移転改築事業を計上するなど、長年の課題を完成させる「節目の予算」となっています。大竹の将来像「笑顔・元気 かがやく大竹」に向かって、今年度も引き続き、すべての施策の前提となる健全な財政運営を推進します。また、駐留軍等再編交付金をはじめとする財源を有効に活用することで、将来的に安定してまちづくりを行える財政の枠組みを保つよう努めながら施策を実行していきます。

平成24年度主要事業

(新規・拡充分・その他主なもの)



7 大竹を愛する人づくり

○奨学金貸付事業 (拡充)

2、531万円

子どもたちが経済的な理由により就学の手助けを失うことがないよう、学資の貸付を行います。平成24年度から、市内に一定期間居住することを要件とした奨学金返還免除制度を新たに導入します。

○小方小学校・小方中学校移転改築事業

17億179万円

老朽化し耐震性の低い小方小学校・小方中学校を大願寺地区に移転改築し、小中一貫教育を見据えた施設一体型の学校に整備します。太陽光の活用など、環境に配慮した学校を建設します。



新校舎イメージ図

○小中一貫教育推進事業 (新規)

317万円

「笑顔・元気 かがやく大竹っ子」を育成するために9年間の学びを一体のものとして捉え、発達段階を踏まえた一貫性のある継続的な教育を行い、学力の向上・中1ギャップの解消を目指します。

○小学校パソコン教室整備事業 (新規)

700万円

小学校パソコン教室の機器を更新します。2人につき1台だったパソコンを1人1台使用できるよう台数を整備し、より情報機器の活用を学べる教育環境を整えます。

○みどり児童クラブ建設事業 (新規)

8、704万円

小方小学校の移転改築にあわせて、児童クラブも小方小学校に併設した形で建設します。1クラス40人規模への移行を視野に入れ、きめ細かな対応ができる施設を整備します。

2 生活基盤が整ったまちづくり

○地域公共交通整備事業 (拡充)

4、474万円

大竹市地域公共交通活性化協議会で策定した「大竹市地域公共交通総合連



こいこいバス

携計画」に基づき、市内公共交通の利便性の向上と活性化に向け、移動環境を整備していきます。

○住宅リフォーム補助事業 (新規)

600万円

安心して快適に住み続けられるよう、子育て世帯、高齢者世帯、障害者世帯の住宅リフォームに要する費用の一部を助成します。

○ケーブルテレビ施設利用促進助成事業 (新規)

200万円

市内における新築などにあわせて、ケーブルテレビに加入する際の初期費用に対する助成を行います。

○住宅・建築物耐震診断改修補助事業 (拡充)

90万円

昭和56年5月31日以前に着工された市内の戸建住宅の耐震診断費用の2/3 (上限3万円)・耐震改修費用の一部を補助します。



3 安全なまちづくり

○水防体制整備事業 (拡充)

1、115万円

市内を5地区(大竹/小方・阿多田/川手/玖波/栗谷・松ヶ原)に分けて災害時の危険箇所や避難場所などを示した土砂災害・洪水ハザードマップを作成します。また、水防活動に必要な資機材等の整備を行うなど、市民の防災意識の高揚を図ります。

○画像転送システム運営事業 (新規)

30万円

円滑な救急活動を行うため広島西医療センターと連携し、救急車と西医療センター間において画像転送システムを導入し、迅速的確な救命活動を行います。



4 安心できるまちづくり

○ケーブルテレビ見守りサービス事業 (新規)

50万円

自宅のテレビにケーブルテレビのチューナーを設置してもらい、毎日電源を入れることで、ケーブルテレビのネットワークを通じて、離れて暮らす家族の携帯電話へ自動的にメール配信するサービスを導入します。

○予防推進事業

1億1、372万円

がん検診や予防接種事業をはじめ、



5 心にゆとりを感じるまちづくり

○市民文化講演会

245万円

現代社会が抱える課題に適した講師を招き、講演会を行います。今年度は、「こころの健康」をテーマとした講演会を予定しています。

○環境美化推進事業

300万円

きれいで快適なまちづくりを推進するため、地域に密着した環境美化活動に取り組んでいる公衆衛生推進協議会の活動を支援します。



6 行政・社会の仕組みづくり

○基幹システム更新事業 (新規)

6、931万円

大竹市役所における基幹システムをサーバー方式からクラウド方式へ更新し、将来的な財政負担をより軽減させ、効率的なデータ管理を行います。



7 平成23年度から引き続き行う主な事業

○消防団資機材整備事業

3、040万円

予算書を販売しています

(消費税込み1,000円)



予算書(A4版376ページ)は、市役所企画財政課、大竹・玖波・木野・栗谷支所で販売しています。市立図書館や情報公開コーナー(市役所1階)で閲覧することもできます。

用語解説

【一般会計・特別会計】

地方公共団体の行政運営上基本的な分野を行う会計を「一般会計」といい、特定の収入をもって特定の事業を行う会計を「特別会計」という。

【歳入・歳出】

地方公共団体が、その仕事を行うために必要な経費を賄うものが収入で、その団体の会計年度における全ての収入を歳入といい、全ての支出を歳出という。

【自主財源・依存財源】

市が自主的に調達するお金かどうかによって歳入を区分したものの。市税や保育料、市営住宅使用料や施設の使用料などが自主財源となる。また、国・県支出金や地方交付税など、国や県から市に入ってくるお金は依存財源となる。市債も依存財源に含まれる。

【性質別歳出】

市の経費をその性質ごとに、義務的経費、投資的経費、そのほかの経費に分類したもの。義務的経費は支出が義務付けられている経費。投資的経費は道路や公共施設の建設などにかかる経費。

【目的別歳出】

市が行う事業を目的別に分類するもので、行政上の特色などを知ることができる。

【駐留軍等再編交付金】

在日米軍の再編等により負担が増える市町村に対して交付される交付金。大竹市の場合は、平成19年度から30年度までの12年間で約40億円が交付予定。平成24年度は3億3,049万円が交付される見込み。

当初予算の概要を無料配布



配布は、各支所や総合市民会館で行っています。なお、市のホームページでも閲覧できます。

平成22年度大竹市の財務書類

平成22年度における大竹市の財務書類(貸借対照表、行政コスト計算書など)を作成しました。市のホームページからも閲覧できます。